

お祝い・お見舞い等の金額からみた

「わが家のおつきあい調査」から

研究開発室

目次

1. はじめに	24
2. 年間の実施者割合・実施回数	25
3. 1件あたりの支出金額	27
4. 相手先別の「結婚祝い」の「相場」	30
5. 相手先別の「お香典」の「相場」	32
6. おつきあいに関する「ひと工夫」(自由回答より)	32

要旨

当研究所で行った「おつきあい」に関するアンケート調査から、さまざまな「おつきあい」の年間の実施回数や、支出を伴った場合の1件あたりの支出金額などをデータとして紹介する。

ライフイベントにかかわるおつきあいの中では、「お香典」の実施者割合が最も多く、6割弱の人が年に1件以上行っている。年中行事型のおつきあいでは、「お歳暮」「お年玉」「お中元」などを実施する人が多く、やはり6割前後の人が行っている。

支出を伴った場合の中心的な支出金額(1件あたり)は、以下のものであった。

- ・「出産祝い」「入学祝い」「卒業・就職祝い」はいずれも「1万円」支出した人が最多。
- ・「新築祝い」は「1万円」が中心。「旅行の餞別」は「3千円」から「1万円」に分布。
- ・「病気のお見舞い」は「5千円」から「1万円」。「お供物料」は「3千円」から「1万円」に分散。
- ・「誕生日祝い」は「1万円」。「お年賀」は「3千円」が最多。「お年玉」は「3千円」から「1万円」。
- ・「お中元」「お歳暮」は、ともに「5千円」が最も多い。

「結婚祝い」の「相場」と思う金額は、以下のものであった。

- ・相手が会社の「同僚」や「部下」では、披露宴等への出席で「3万円」、欠席で「1万円」。
- ・「近親の親戚」では、出席で「5万円」か「3万円」、欠席で「3万円」か「1万円」。

「お香典」の「相場」と思う金額は、相手が「会社の人」「近所の人」「友人・知人」の場合は「5千円」。「近親の親戚」では「1万円」。

1. はじめに

今も昔も生活には、さまざまな“つきあい”がある。かつての「村八分」という言葉の背景には、「村」における十のつきあいが想定されていた。十のつきあいとは、冠・婚・葬・建築・火事・病気・水害・旅行・出産・年忌である。これらの出来事が起こったときには村人は必ず“つきあ”って、互いに金銭や労力を提供し、祝いあったり助けあったりした。なお、蛇足ながら「村八分」とは、「葬」と「火事」を除いた八つについて、つきあいを断たれることである。

江戸時代の村落共同体では、これらは単なる“つきあい”を超えた、生活に必要な相互扶助でもあった。例えば家の屋根を葺きかえる際には、近隣から労力の提供を受けることが不可欠だったのである。

諸サービスが市場化した現代では、つ

きあいにそういった要素は少ない。しかし冠婚葬祭などにおけるつきあいは、コミュニティや親族関係における潤滑油のような働きをしている。つきあいを欠かすと、“つきあいの悪い人”と見られるし、はなはだしい場合はコミュニティ等の中で“いじめ”られたり、疎外されたりすることもある。依然としてつきあいは、生活に欠かせない大切なものなのである。さらにつきあいには、お祝い金などの支出を伴うものが多い。この金額を決めることも、なかなか悩ましい問題である。ノウハウ本などに妥当とされる金額が書いてあるものの、実際には決めかねて悩むことも多い。

そこで、当研究所では、さまざまな「おつきあい」の年間の実施回数と、1回あたりの支出金額をたずねたアンケート調査を昨年実施した。本稿では、この調査結果をデータとして紹介したい。アンケート調査の実施概要は以下のとおりである。

アンケート調査の実施概要

1. 調査対象 全国の20歳～69歳の男女1,000名
(当研究所モニター)
2. 実施時期 2002年6月
3. 調査方法 質問紙郵送調査法
4. 有効回収数(率) 948名(94.8%)
5. 回答者の属性

(%)	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
男性(421名)	13.8	21.9	21.1	21.6	21.6	100.0
女性(527名)	25.2	18.6	18.4	19.0	18.8	100.0
計(948名)	20.1	20.1	19.6	20.1	20.1	100.0

なお、「おつきあい」は、入学・卒業や冠婚葬祭などの「ライフイベント」に関連するおつきあい(「ライフイベント型おつきあい」と、毎年「年中行事」に関連するおつきあい(「年中行事型おつきあい」)に整理して紹介する(図表1)。

第1章では、各「おつきあい」について、1年間に実施した人の割合と実施した回数を見る。第2章では、支出を伴った場合の1件あたりの実際の支出金額を示す。「結婚祝い」および「お香典」については、第3章および第4章で相手方の属性別に、いわゆる「相場」と考えられている金額を紹介する。最後に自由回答欄(「おつきあい、私の『ひと工夫』」)に記述された、「日頃心がけていること」や「ちょっとした工夫で喜ばれた経験」などの実例を紹介する。

2. 年間の実施者割合・実施回数

(1) ライフイベント型おつきあい

ライフイベント型おつきあいの年間実施者割合は、「お香典」が6割弱で最も多い

ライフイベント型おつきあいの年間の実施者割合(1年間に1回以上実施した人の割合、以下同じ)は、「お香典」が最も多く、6割弱(57.9%)が実施している。過半数の人が実施した「おつきあい」は、「お香典」だけであった。「結婚祝い(出席)」(41.4%)、「出産祝い」(39.6%)は約4割の人が実施しており、「病気のお見舞い」(31.3%)、「入学祝い」(30.2%)、「お供物料」(27.8%)などは3割前後の人が実施している。

一方、「旅行の饞別」(6.8%)、「新築祝い」(11.8%)の実施者は1割前後にとどまっている。

実施した回数を見ると「お香典」(年間の平均実施回数は、1.60件：分母には未実施者を含む、以下同じ)「結婚祝い(出席)」(0.65件)、「出産祝い」(0.63件)などが多くなっている。逆に、「旅行の饞別」(0.12件)、「新築祝い」(0.13件)などは実施回数も少ない。ただし、最も多い「お香典」でも年間の実施回数は1回(22.0%)か2回(15.8%)という人が多く、年間にそれほど頻繁に実施しているわけではない。

図表1 「おつきあい」の整理

ライフイベント型おつきあい	年中行事型おつきあい
出産祝い	誕生日祝い
入学祝い	お年賀
卒業・就職祝い	お年玉
結婚祝い(出席/欠席)	お中元
新築祝い	お歳暮
旅行の饞別	
病気のお見舞い	
お供物料	
お香典	

(2) 年中行事型おつきあい

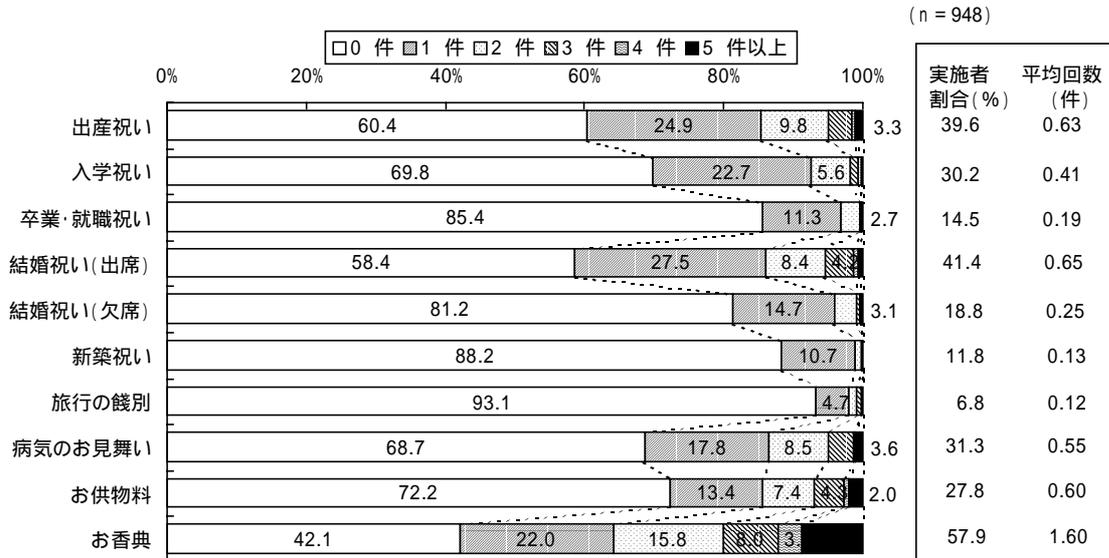
年中行事型おつきあいでは、「お歳暮」の実施者割合が約6割で最も多い

年中行事型の実施者割合では、「お歳暮」(63.4%)、「お年玉」(61.1%)、「お中元」(57.5%)が多く、6割前後の人が年間に1件以上実施している。これに対し「誕生日祝い」は約3割(29.1%)、「お年賀」は2割(20.0%)にとどまる。年末・年始のおつきあいでは、「お歳暮」「お年玉」に比べ「お年賀」の実施者割合

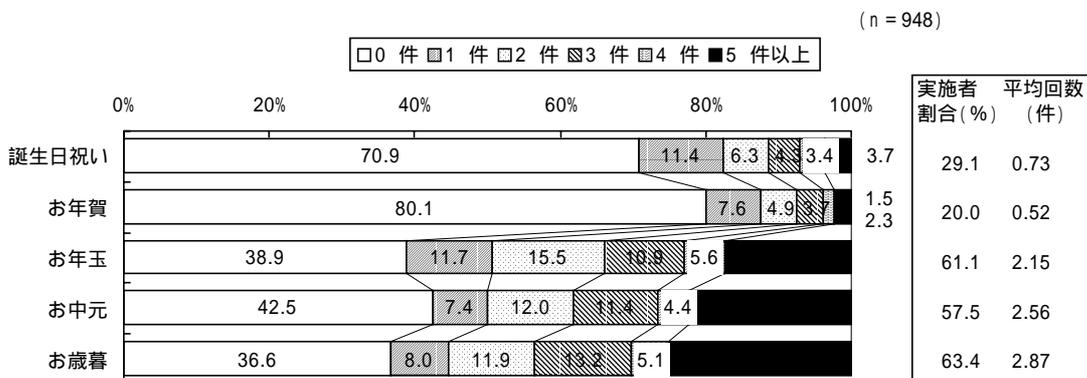
は少ない。

年間実施した回数は、「お歳暮」(2.87件)が最も多く、ついで「お中元」(2.56件)、「お年玉」(2.15件)の順である。これらについて実施した人の実施回数を見ると、いずれも「5件以上」が最も多く、実施した人は比較的多くの件数を実施している。これらの年中行事型のおつきあいが、人々の生活に根づいている様子がうかがえる。

図表2 ライフイベント型おつきあいの実施者割合・実施回数(年間)



図表3 年中行事型おつきあいの実施者割合・実施回数(年間)



3. 1件あたりの支出金額

(1) ライフイベント型おつきあい(結婚祝いとお香典を除く)

出産、入学、卒業・就職祝い

「出産祝い」「入学祝い」「卒業・就職祝い」はいずれも1万円が最多

「出産祝い」で支出を伴った人の金額(1件あたりの実際の支出金額、以下同じ)をみると、「1万円」が約4割(42.3%)を占めて最も多く、「5千円」が3割弱(25.9%)で続いている(図表4)。

「入学祝い」も「1万円」を支出した人が約4割(44.0%)で最も多い。ついで「2万円」(15.3%)、「5千円」(12.1%)の順であるが、いずれも2割未満である。

「卒業・就職祝い」では「1万円」が5割弱(48.4%)に達している。ついで「2万円」(19.0%)が多くなっている。

新築祝い、旅行の饞別

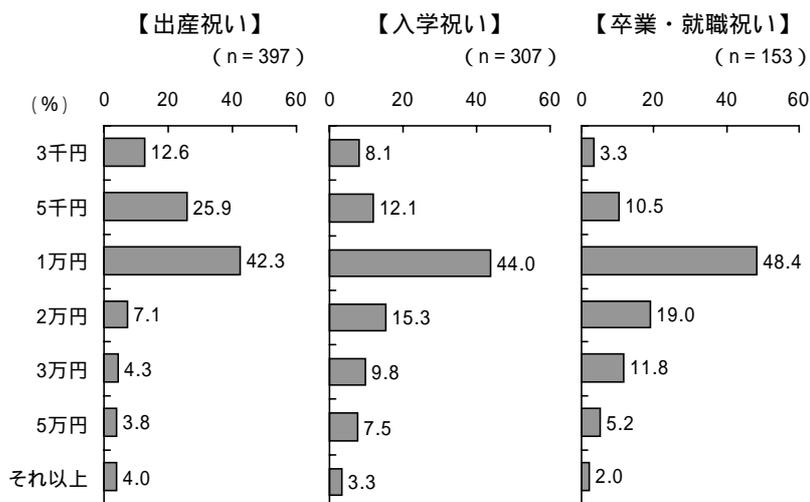
「新築祝い」は、「1万円」が中心。「旅行の饞別」は「3千円」から「1万円」に分布

「新築祝い」では、「1万円」が約3分の1(35.7%)を占めて最も多くなっている。ついで「5千円」(23.0%)が多く、1万円以下で7割弱を占めている(図表5)。一方、「3万円」(10.3%)や「5万円」(5.6%)、「それ以上」(9.5%)という回答もそれぞれ1割前後あった。家の新築はライフイベントの中でも大きな出来事であり、高額のお祝いを支出するケースもあるようだ。

「旅行の饞別」は「5千円」(30.4%)と「1万円」(29.1%)が多くなっている。これに「3千円」(20.3%)が続いており、3千円から1万円が中心となっている。

「旅行の饞別」は実施者割合が6.8%と、最も実施する人の少ない「おつきあい」であったが、実施した場合でもあまり高額な支出は伴っていない。

図表4 「出産祝い」「入学祝い」「卒業・就職祝い」の支出金額(1件あたり)



病気のお見舞い、お供物料

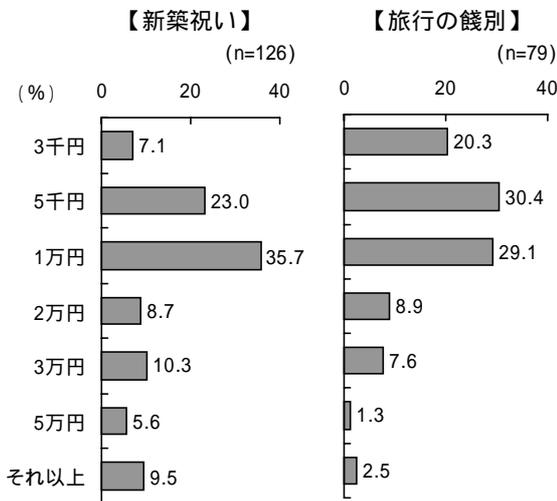
「病気のお見舞い」は「5千円」から「1万円」。「お供物料」は「3千円」から「1万円」に分散

「病気のお見舞い」は「1万円」が約4割（39.6%）で最も多く、ついで「5千円」が約3割（33.8%）を占めている。「3千円」は2割弱（17.1%）である。「病気のお見舞い」の際の支出は、「5千円」か

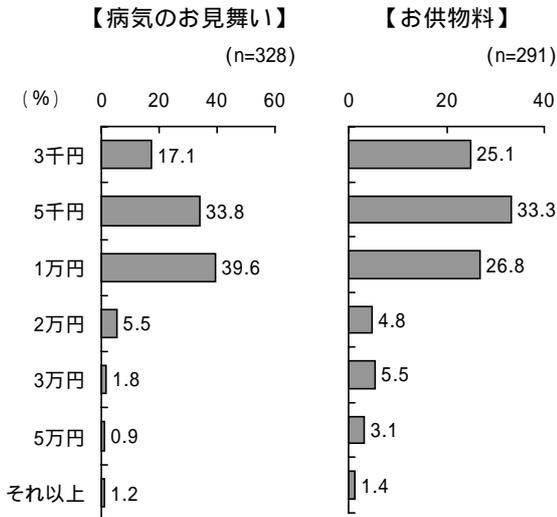
ら「1万円」までに7割強（73.4%）が集まっている（図表6）。

「お供物料」は「5千円」が約3割（33.3%）で最も多いものの、「1万円」（26.8%）や「3千円」（25.1%）も3割弱で並んでいる。「お供物料」は、「5千円」を中心に「3千円」から「1万円」まで分散している。

図表5 「新築祝い」「旅行の饞別」の支出金額（1件あたり）



図表6 「病気のお見舞い」「お供物料」の支出金額（1件あたり）



(2) 年中行事型おつきあい

誕生日祝い、お年賀、お年玉

「誕生日祝い」は「1万円」、「お年賀」は「3千円」が最多。「お年玉」は「3千円」から「1万円」

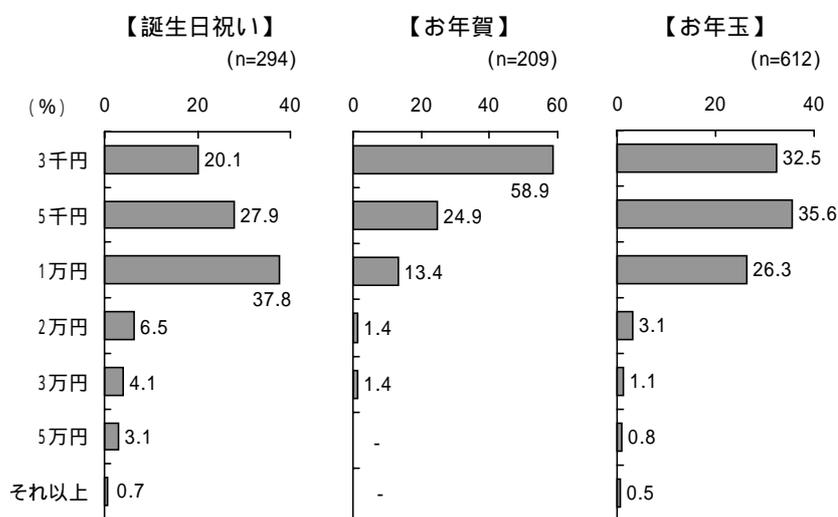
年中行事型おつきあいでの支出を見ると、「誕生日祝い」では「1万円」を支出した人が約4割(37.8%)で最も多い。ついで「5千円」が約3割(27.9%)、「3

千円」が約2割(20.1%)となっている。

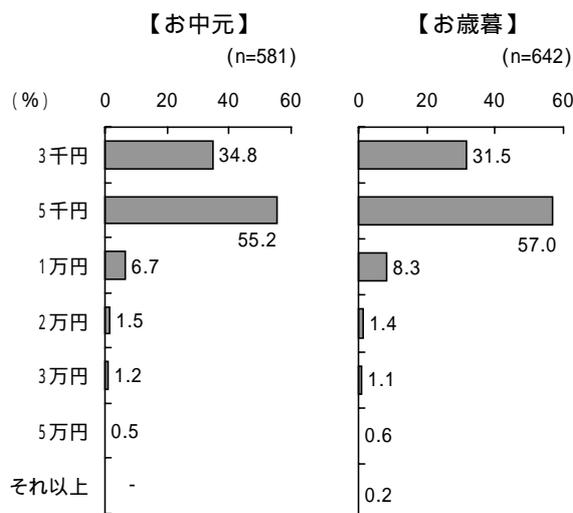
2万円以上も累計で1割強存在しており、高額な誕生日祝いを支出しているケースもある(図表7)。

「お年賀」は「3千円」を支出した人が約6割(58.9%)で最も多い。ついで「5千円」(24.9%)が多く、5千円までで約8割を占めている。2万円以上を支出した人はほとんどいない。

図表7 「誕生日祝い」「お年賀」「お年玉」の支出金額(1件あたり)



図表8 「お中元」「お歳暮」の支出金額(1件あたり)



「お年玉」は「5千円」(35.6%)を中心に、「3千円」(32.5%)、「1万円」(26.3%)に分散している。お年玉の場合渡す相手の年齢等により金額が変わるため、このような結果になったものと思われる。なお、「お年玉」も2万円以上支出した人は、ごく少数である。

お中元、お歳暮

「お中元」、「お歳暮」ともに「5千円」が最も多い

「お中元」「お歳暮」での支出金額は「5千円」が、ともに6割強(お中元は55.2%、お歳暮は57.0%)で最も多い(図表8)。ついで「3千円」が、やはりともに約3割(お中元は34.8%、お歳暮は31.5%)で多くなっている。このように「お中元」と「お歳暮」は、9割弱の人は1件あたり5千円までの支出である。全般的な支出金額の傾向も類似しており、特にどちらかで高額の商品を贈るといったことはないようだ。

4. 相手先別の「結婚祝い」の「相場」

結婚祝いについては、贈る相手先別に、いわゆる「相場」がどのくらいと思うかたずねた。相手先は、会社等の「同僚」、「部下」および「(比較的)近親の親戚」の3通りとし、さらに、披露宴等に出席した場合と、出席しない場合に分けてたずねた。

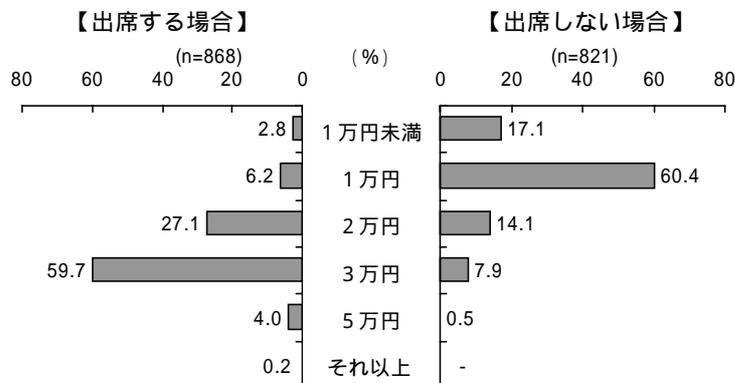
(1) 「同僚」への結婚祝い

披露宴等に出席する場合は「3万円」、出席しない場合は「1万円」

「同僚」への結婚祝いでは、披露宴等に出席する場合は「3万円」が約6割(59.7%)で最も多い。ついで、「2万円」が3割弱(27.1%)である(図表9)。

披露宴等に出席しない場合は、「1万円」が約6割(60.4%)で最も多くなる。ついで「1万円未満」の2割弱(17.1%)である。

図表9 会社の「同僚」への結婚祝いの「相場」



このように会社の「同僚」では、披露宴等への出席で「3万円」、欠席で「1万円」が中心的な「相場」になっている。

(2) 「部下」への結婚祝い

披露宴等に出席する場合は「3万円」、出席しない場合は「1万円」

「部下」への結婚祝いは、「同僚」とほぼ同じ結果であった。披露宴等に出席する場合は「3万円」が約6割（56.0%）で最も多く、ついで「2万円」が3割弱（27.2%）である。披露宴等に出席しない場合は「1万円」が6割弱（58.9%）で最も多い。ついで「1万円未満」の約2割（21.2%）である（図表10）。

会社の「部下」も「同僚」と同じく、披露宴等への出席で「3万円」、欠席で「1万円」が中心的な「相場」になっている。「部下」だから「同僚」より少額、ということはないようだ。

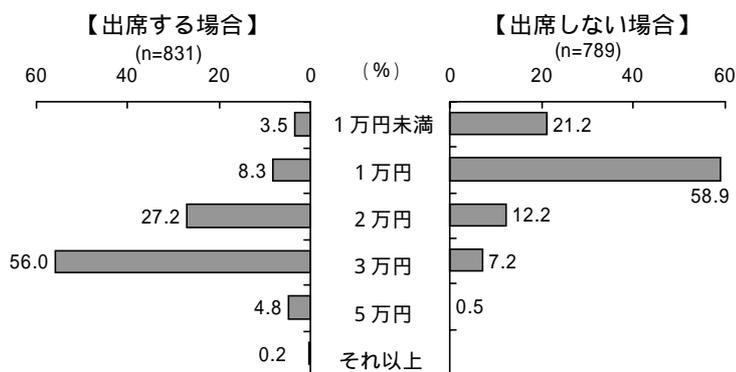
(3) 「近親の親戚」への結婚祝い

披露宴等に出席する場合は、「5万円」か「3万円」、出席しない場合は「3万円」か「1万円」

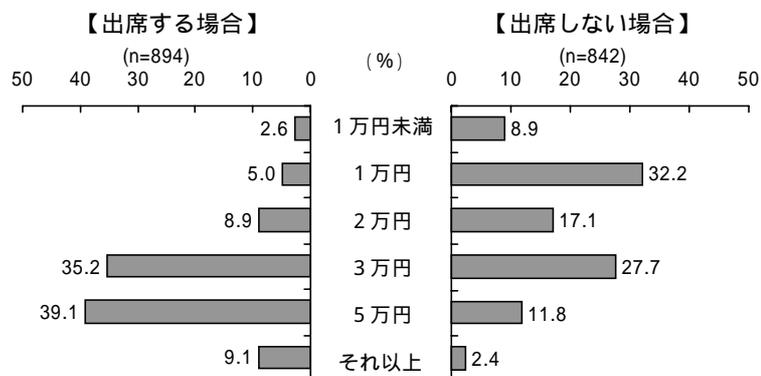
比較的「近親の親戚」への結婚祝いは、会社の「同僚」や「部下」に比べ、一段高い金額が「相場」と考えられている。

披露宴等に出席する場合は、「5万円」（39.1%）および「3万円」（35.2%）

図表10 会社の「部下」への結婚祝いの「相場」



図表11 「近親の親戚」への結婚祝いの「相場」



が、それぞれ4割弱で多くなっている(図表11)。出席しない場合は「1万円」が約3割(32.2%)で最も多いが、ついで「3万円」も3割弱(27.7%)である。

このように、「近親の親戚」への結婚祝いは、会社の「同僚」や「部下」より一段高い。親戚の「近しさ」にもよるのだろうが、「同僚」や「部下」といった仕事上の関係よりは、高額のお祝いを贈る間柄と考えられているようだ。

5. 相手先別の「お香典」の「相場」

「会社の人」「近所の人」「友人・知人」は「5千円」、「近親の親戚」は「1万円」

お香典についても、相手先別に、どのくらいが「相場」と思ふかたずねた。相手先は、「会社の人」「近所の人」「友人・知人」「(比較的)近親の親戚」の4通りである。

結果を見ると、「会社の人」「近所の人」「友人・知人」では、いずれも「5千円」が約5割で最も多くなっている(図

表12)。ただ、「会社の人」と「友人・知人」では、「5千円」について「1万円」が3割前後で多いが、「近所の人」では「3千円」が4割弱で多い。「近所の人」に「1万円」と考える人は約1割にとどまっている。

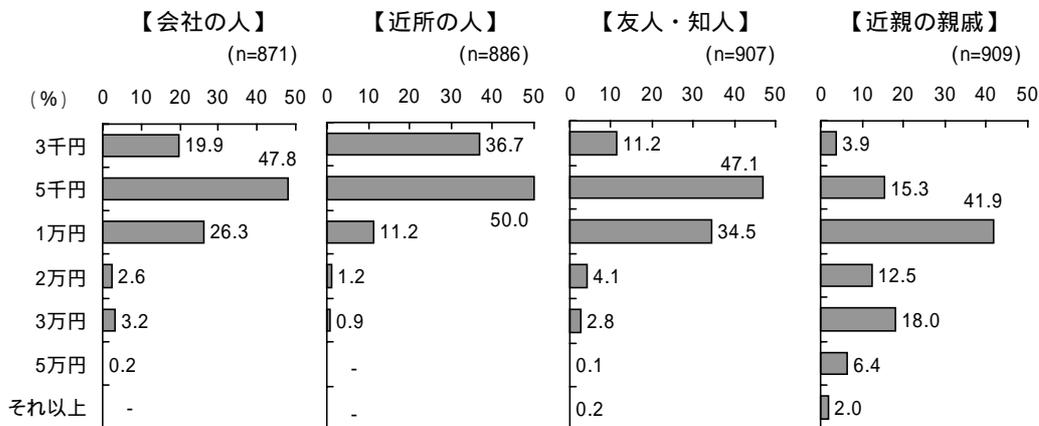
一方、「近親の親戚」では、「1万円」が約4割(41.9%)で最も多い。ついで「3万円」(18.0%)、「5千円」(15.3%)の順であり、金額の散らばりが大きい。これはイメージした「近親」の違いによるためかもしれない。ただし、全般的には「近親の親戚」は、それ以外の人よりも「相場」と考える金額が高くなっている。

6. おつきあいに関する「ひと工夫」

(自由回答より)

最後に、自由回答欄(「おつきあい、私の『ひと工夫』」)から、回答者がおつきあいに関して「日頃心がけていること」や、「ちょっとした工夫で喜ばれた経験」等の事例を紹介する。

図表12 お香典の「相場」



〔日頃の心がけ全般に関すること〕

- ・夫の会社や子どものことなど、プライベートなことに立ち入らないようにしている。
- ・見栄を張らない。分別あるスタンスで。
- ・友達とは長続きするよう、重荷にならない付き合いをする
- ・日頃から相手の食べ物などの好みを把握し、記念日などをメモしておく。

〔贈答に関すること〕

- ・両親への贈り物には子どもの描いた絵を添えて贈る。
- ・形だけのお中元やお歳暮の代わりに、旅行先からお土産を心を込めて買い、送る。
- ・相手の好み分からないときは、カタログギフトにする。
- ・子どものいる家庭へのお中元は、子どもの好物や一緒に食べられるものを

贈る。

〔お見舞いに関すること〕

- ・お見舞いの品は、看病している家族にとって必要なものを選ぶ。
- ・相手が親しい人の場合には、お返し不要である旨伝える。

〔冠婚葬祭に関すること〕

- ・お祝いやお香典は、するかどうか迷ったときには、少額でもするようにしている。
- ・出産祝いなら紙おむつなど、相手が本当に必要なものを現金とともに贈る。
- ・お祝いののし袋に自分なりの一言(「ご入学おめでとう」など)を書き添える。
- ・冠婚葬祭の席には必ず自分自身が出席し、交際を深めるようにする。